

特別企画・美術館でブックトーク～あなたに伝えたい美術の本～(全4回)

3回目〈美術の本ができるまで〉

美術に係わる本の魅力を紹介する連続講座の第3回目は、大正12年の創立以来、数々の優れた美術書を出版している株式会社求龍堂^{きゅうりゅうどう}で、長年、美術書の編集に携わっている深谷路子氏^{ふかや みちこ}によるブックトークです。深谷氏が担当した書籍の生原稿をはじめ、赤字のに入ったゲラ(校正刷り)や束見本、色見本や色チップといった、編集作業に必須の品々を紹介しながら、美術書の製作にまつわる話をします。

美術の世界だけでなく、出版業界に関心のある方にもお勧めの内容です。入館料のみで参加できますので、ぜひ、お越しください。

と き：10月19日(土)午後2時～3時30分
場 所：美術館エントランスホール
講 師：深谷路子氏(株式会社求龍堂編集部課長)
入 館 料：一般…700(300)円、大学生…500(200)円、高校生以下…無料
※()内は市民割引券を利用した際の料金です。
参加方法：美術館へ電話で申し込む



深谷路子氏



この秋、本の
世界に触れて
みようかな♪

みゆき&たくみ

◆企画展紹介①「筆筥」
日光市中央町29-1(今市図書館隣) ☎(22)6217
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料) 休館日 月曜日、祝日
筆筥は、17世紀の中ごろの大坂で生まれた引き出しや、扉のついた収納用具です。
●筆筥の普及
鋸などの大工道具の発達や木工技術の進歩によって薄い板材が生産できるようになったことや、生活水準の向上により庶民が多くの衣類や小物を持てるようになったことなどから、江戸時代後期から明治時代初期にかけて、それまで使われていた長持や櫃、葛籠に代わるものとして広く普及しました。
●筆筥の種類と生産地
代表的なものに、一般家庭で使われた衣装筆筥や水屋筆筥、商家に置かれた帳筆筥などがあり、他にも船主が使用した船筆筥、薬種商が使用した薬筆筥など、用途に応じていくつかの種類が見られます。また、移動に便利のように車輪がついたものや、室内の空間を有効に使えるように階段状になったものなどもあります。



衣装筆筥(鶴岡)

歴史民俗資料館通信



江戸や大坂をはじめ、仙台(宮城県)、酒田(山形県)、佐渡(新潟県)、三國(福井県)などが生産地として知られ、キリやケヤキ、スギなどの木の素材にこだわったものや塗りに特徴のあるもの、金具や引き手のデザインに凝ったものなど、個性あふれる筆筥を見ることが出来ます。

この企画展では、各地で作られたさまざまな筆筥を紹介しています。木のぬくもりや形、金具の美しさをはじめ、それらを作った職人の技をぜひご覧ください。

◆企画展開催期間
10月12日(土)～12月15日(日)

ホッとHOTなまちをつくらう

～日光市中心市街地活性化基本計画～ その⑥ 最終回

今市市街地である国道119号沿いに、多目的ホールや広場、商業施設などの集客拠点施設を整備する小倉町周辺整備事業の建設工事がいよいよ始まりました。

今市市街地に人の流れやにぎわいを取り戻すために、「ホッとHOTなまちづくり」に取り組んでいきます。



歩きだくなるまちづくり委員会、活動中



歩きだくなるまちづくり委員会

6月27日(木)に「歩きだくなるまちづくり委員会」を設立しました。この委員会は、今市市街地を人が集まるまち、楽しめるまちにしていきたいと思っっている有志が集まり、「楽しみや活気を創り出すまち」を目指して開始しました。現在行っている取り組みは、「散策マップづくり」です。
設立直後から講演会や勉強会を開き、全国で成功しているまちづくりの仕掛けや、各地の市街地のマップを研究して、今市市街地のマップづくりに取り組んでいます。
委員は皆さんにぜひ知ってもらいたいこと、行ってみて欲しいところを再発見するため、市街地を探索し、情報を収集しています。会議では「みんなこれ知ってた?」「ここは絶対教えない!」「これは絶対に見て欲しい!」などの意見が飛び交い、楽しみをたくさん発見しています。

多目的ホール・広場運営委員会も活動中



多目的ホール内完成イメージ

どんなマップが出来上がるのか楽しみます。手に取った人が歩きだくなる魔法のマップを目指し、頑張っています。平成26年2月11日(火・祝)の花市の開催日に披露(配布)予定です。皆さん、お楽しみに!
小倉町周辺整備事業で整備される多目的ホールは、可動式で収納が可能な客席が380席あり、広いスペースが作り出せます。多目的広場は、広さ約1,300㎡で、各種イベントの開催に利用できる広場です。
多目的ホール・広場運営委員会は、これらの施設を運営していくための組織として、8月1日(木)に設立されました。
平成27年4月のオープンに向けて、施設の利用料金などの維持管理に関することや、にぎわいを創り出すイベントなどについて検討していきます。

第1回の委員会では各委員の思いが発表されるなど、早くも熱く活発な協議が始まりました。



多目的ホール・広場運営委員会



これからもう頑張るよ! ありがとうございました!

「ホッとHOTなまちをつくらう」は今回で最終回です。
今、今市市街地は、そこに関わる皆さんの力で変わろうとしています。「人が集まるまち、楽しめるまち、暮らしやすいまち、ずっと住みだくなるまち」を目指して、これからも地域の皆さんと市が力を合わせながら、一緒にホッとHOTなまちづくりに取り組んでいきます。

この連載についてくわしくはまちづくり推進課 ☎(30)1176